



成人病（生活習慣病）*News Letter*

第46回日本成人病(生活習慣病)学会 開催にあたって

第46回日本成人病（生活習慣病）学会
会長 北川 泰久
（東海大学医学部付属八王子病院）



このたびは第46回生活習慣病を開催させていただき、関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。本学会は各種生活習慣病について、その診断およびQOLの向上をめざした食習慣、運動、薬物療法について幅広く議論する学会です。

今回のメインテーマは私の専門である脳を中心に、“生活習慣病から脳を守る”としました。三大成人病の1つである、脳卒中は高齢化社会を迎え、生活習慣の影響を大きくうけ、最近増加しているアルツハイマー型認知症も生活習慣が大きく関与するとされています。

本学会は、理事長講演、特別講演、会長講演、シンポジウム2題、教育講演2題、ミートザエキスパート2題、プレナリーレクチャー2題、特別企画1題、ランチョンセミナー4題、一般演題56題からなっています。東日本大震災の影響も懸念されましたが、一般演題はほぼ例年並みの登録があり有り難うございました。

今回の学会は跡見理事長から岩本理事長にバトンタッチしてから初めての学会で、新理事長から抱負をお話いただきます。特別講演には生活習慣病と関係の深い頸動脈病変診療について、長崎大学脳神経外科の永田 泉先生にリスク管理と内科治療および血管内・外科治療の最新の知見をお話いただきます。シンポジウム1は最近高齢者で急増している心原性脳塞栓症を取り上げ、脳と心の立場からその診断と治療の新しい展開について討論していただきます。新たな抗凝固薬の使い方と注意点、さらに今後の展望にも触れていただきます。シンポジウム2は職域における生活習慣病に対する運動療法と題し、運動療法の意義について論じていただきます。運動療法は本学会の重要なテーマの1つになっており、様々な角度からの十分な議論を期待しています。教育講演、ミートザエキスパート、プレナリーセクシ

ョンにおいては生活習慣病における各領域の専門の

先生に最新のデータを紹介していただきます。特別企画として、東日本大震災における生活習慣病に対する対応について、震災後10ヶ月の経験をもとに岩手医大の寺山靖夫先生に講演していただきます。ランチョンセミナーでは虚血性心疾患、脳卒中、糖尿病、癌の最新治療について、それぞれの専門の先生にご講演いただきます。今年度の市民講座のテーマは「生活習慣から認知症を防ぐ」です。今後、ますます増える認知症に対してどのように対応するか、市民の皆様が参考になるポイントについてわかりやすく講演していただきます。

本学会がすべての会員の皆様にとって、明日からの診療、研究に役立つものとなることを期待しております。多くの先生方の参加をお待ちしております。

今号の主な内容

- ◇ 第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催にあたって
- ◇ 第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催のお知らせ
- ◇ 市民公開講座のお知らせ
- ◇ 第2回教育集会を終えて
- ◇ 寄稿文：第2回教育集会に参加して
- ◇ 平成24年度学会認定管理指導医申請のご案内
- ◇ 主な関連学会のお知らせ
- ◇ 入会のおすすめ、その他
- ◇ 編集後記

第46回日本成人病(生活習慣病)学会 プログラム(概要)

※敬称略

理事長講演

「日本成人病（生活習慣病）学会のさらなる発展をめざして」
岩本 安彦（日本成人病（生活習慣病）学会理事長）

会長講演

「生活習慣病から脳を守る」
北川 泰久（東海大学八王子病院）

特別講演

「頸動脈病変診療の最前線」
永田 泉（長崎大学）

プレナリーレクチャー I

「iPS細胞を用いた心臓の再生と心臓病の病態解明」
福田 恵一（慶應義塾大学）

プレナリーレクチャー II

「肝臓の先進的治療」
若林 剛（岩手医科大学）

教育講演 I

「放射線被曝と健康障害」
浦島 充佳（東京慈恵会医科大学）

教育講演 II

「食習慣とがん」
津金昌一郎（国立がん研究センター）

Meet the Expert I

「睡眠と生活習慣病」
苅尾 七臣（自治医科大学）

Meet the Expert II

「高齢者に対する大腸癌治療」
杉原 健一（東京医科歯科大学）

特別企画

「東日本大震災－生活習慣病へのインパクト－」
寺山 靖夫（岩手医科大学）

シンポジウム I

心房細動の脳梗塞予防一心と脳からの新たなる展開－

◆脳の立場から：

「頭蓋内出血を激減させる新規経口抗凝固薬の心原性脳塞栓症再発予防への期待」

矢坂 正弘（九州医療センター）

「心原性脳塞栓の病態と予防戦略」

長田 乾（秋田県立脳血管センター）

◆心の立場から：

「わが国の心原性脳梗塞予防の現状－J-RHYTHM Registryからの報告」

新 博次（日本医科大学多摩永山病院）

「心原性脳梗塞の重症度と抗凝固療法的重要性」

奥村 謙（弘前大学）

シンポジウム II 日本医師会認定産業医制度研修会（3単位）

職域における生活習慣病の予防・改善と運動療法

「生活習慣病患者に対する運動療法に効果について」

徳岡健太郎（東海大学八王子病院）

「エネルギー消費量に構成成分と肥満」

田中 茂穂（国立健康・栄養研究所）

「運動と生活習慣病の疫学について」

澤田 享（東京ガス）

「運動効果と遺伝について」

家光 素行（立命館大学）

「生活習慣病施策と運動基準・指針について」

宮地 元彦（国立健康・栄養研究所）

「青少年期と成人期における運動習慣の変化がメタボリックシンドロームに及ぼす影響」

高橋 英孝（東海大学）

ランチョンセミナー I

「抗血栓薬をめぐる諸問題－最近のエビデンスから－」

棚橋 紀夫（埼玉医科大学）

ランチョンセミナー II

「冠動脈疾患の2次予防：残された課題」

代田 浩之（順天堂大学）

ランチョンセミナー III

「広がる糖尿病治療薬の選択肢－どのように使いこなすか－」

植木浩二郎（東京大学）

ランチョンセミナー IV

「大腸癌治療ガイドラインの実践－ガイドラインの改訂と新たな課題－」

島田 安博（国立がんセンター）

市民公開講座 開催のご案内

2012年1月15日（日）14：00～16：00 都市センターホテル（3階 コスモス）

「生活習慣から予防する認知症」

開会挨拶

日本成人病（生活習慣病）学会理事長 岩本 安彦

I 「認知症は生活習慣病か？－認知症の正しい理解と効果的な予防－」

鳥取大学医学部保健学科生体制御学 浦上 克哉

II 「高齢者の生活と財産管理を守るために－成年後見制度とは何か－」

中央大学法学部・筑波大学 新田 誠

閉会挨拶

第46回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会会長 北川 泰久

※この公開講座は事前申込制（市民向け）

（共催：エーザイ株式会社）

申込方法等は決定次第ホームページにてお知らせいたします。

第2回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会を終えて

担当理事 熊谷 一秀
昭和大学附属豊洲病院 外科

平 成23年9月3日（土）の午後、昨年に引き続き第二回教育集会を千代田放送会館にて開催させていただきました。

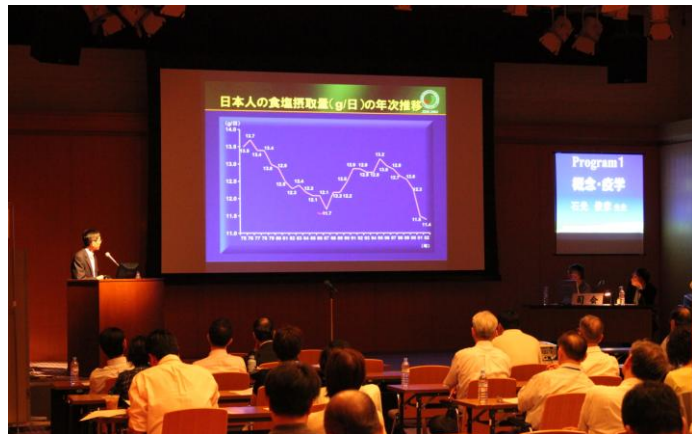
昨年度は第一回目の教育集会ということで、成人病・生活習慣病において頻度が高く、重要な疾患、病態を広く採りあげて講演をいただきました。プログラムの内容は大腸がんと生活習慣、脂質異常症と動脈硬化、脳卒中の予防、治療、CKDと生活習慣病、糖尿病の予防と治療などであり、多岐にわたる生活習慣病の基礎から最前線までお話しいただき大変好評を得ました。今般の第二回の教育集会のプログラムは担当委員会で検討していただいた結果、高血圧症をメインテーマとし高血圧症におけ



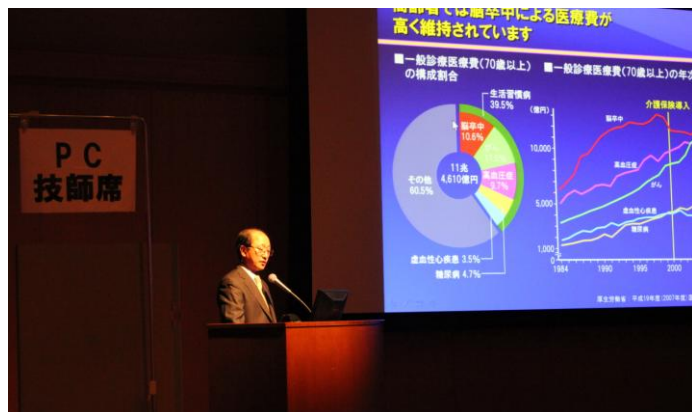
当日は台風の影響で風雨が強く、足元が悪い日和で心配しましたが予定通り約100名の参加者があり一安心いたしました。昨年度の教育集会では生活習慣病全般がテーマであり、医師以外の看護師、管理栄養士、保健師などのコメディカルの方々の参加が約3割と多くを占めましたが、今年度は高血圧症の各種臓器の合併症を主題としたためか、大部分が医師の参加でありました。参加者の広がりや主題の設定も今後の大きな課題と思われました。

2回の教育集会開催を通じて、本学会の教育集会としてのテーマ選択はより重要な課題であり、またより多くの方々に参加いただくための方策など検討すべきと感じております。なお、教育集会参加は学会認定管理指導医の申請、更新の重要な業績となることを改めて申し添えます。

最後に教育集会開催にあたり絶大なるご支援、ご協力をいただきました岩本安彦理事長ならびに担当理事、理事の諸先生、学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



る各種臓器合併症の病態に関して講演をいただきました。内容は、高血圧症と各種臓器合併症の病態の概念・疫学（石光俊彦先生）、腎障害（木村健二郎先生）、網脈絡膜血管障害（湯浅美都子先生）、脳血管障害（岩本俊彦先生）、心・循環器障害（梅村 敏先生）であり、各講師の先生方には渾身の講演をしていただきました。今回は今後の教育集会に向けて参加者の意向を反映する目的でアンケート調査にご協力いただきました。講演テーマに関しては概ね好評で、一つのテーマで幅広く勉強できてよかったなどの意見も寄せられました。教育集会の運営に関しては日曜日開催、時間設定、会場など多くの指摘があり、今後のテーマ設定に関しても多くの提案が寄せられ参考にさせていただきます。



第2回日本成人病（生活習慣病）学会教育集会に参加して

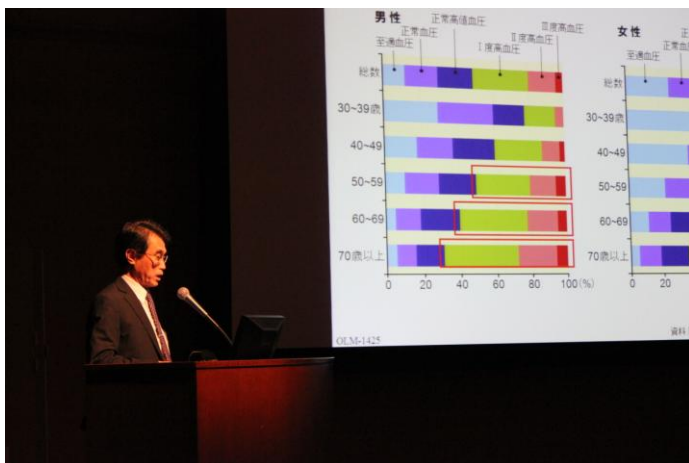
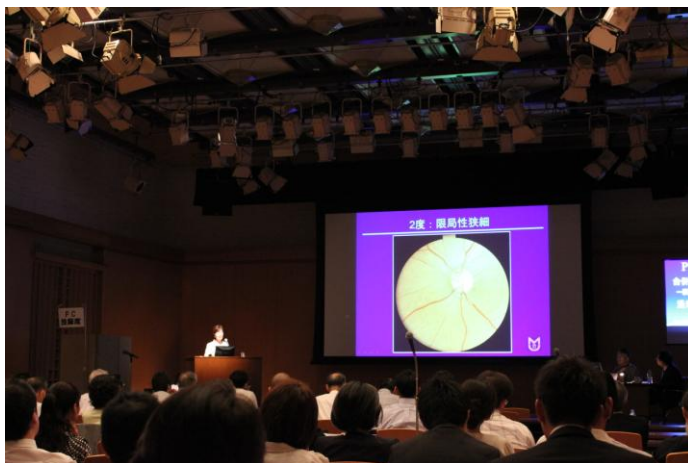
大阪府立成人病センター 臨床研修医
谷川 和子

卒業してから数か月、毎日毎日知らないこと、出来ないことの連続で無我夢中の研修医生活の中、正直申し上げて落ち着いて勉強を、という時間を持つことが少なくなっていました。そんな時に本学会の教育集会に行ってみないか？と言われてプログラムを拝見した際は本当に研修医が行って分かるのかと言う思いと、休みをもらって東京まで勉強に行ける、という喜びが正直ありました。

教育集会に出席してみますと、研修医の私には次から次へと大事な話が続いて密度の濃い充実した講義の連続でした。石光先生の高血圧治療は全身管理としての高血圧治療であるとの指

摘、木村先生の腎機能低下進行を抑えるための様々の手段のお話、湯澤先生の網脈絡膜変化（高血圧性変化と動脈硬化性変化の違いなど）の講義、岩本先生の脳血管障害および高齢者の血圧コントロールのコツの話、梅村先生のRAS系からみた高血圧および合併症の話、などなど盛り沢山でここには書き切れません。医学雑誌を一冊読んだような気分です。恐らくこれから診療現場で少しずつ教えていただいたことを役立てられるのでは、と思っています。

最後に本教育集会への出席の手配をいただいた当院の淡田副院長、貴重な講義をいただいた先生方に心から御礼申し上げます。



平成24年度学会認定管理指導医申請のご案内

日本成人病（生活習慣病）学会では本学会の教育、啓発活動を具体化するために平成23年度より学会認定管理指導医制度が発足致しました。

平成24年度の申請につきまして下記の通りご案内申し上げます。

以下に学会認定管理指導医制度規定の一部を抜粋いたしますので、申請時の参考にしてください。

1. 認定管理指導医の申請に必要な書類

- 1) 認定管理指導医資格認定申請書
- 2) 履歴書
- 3) 医師免許証（写し）
- 4) 本学会学術集会参加証（写し）
- 5) 本学会教育集会参加証（写し）
- 6) 業績目録（過去5年間における本学会の講演、座長などの学会抄録の写し。生活習慣病に関わる論文、他学会における講演などの記録の写し。）
- 7) 本学会評議員あるいは認定管理指導医の推薦書

2. 認定管理指導医申請には以下に定める業績の5点以上が必要です。ただし、本学会学術集会あるいは教育集会に2回以上の出席が必須です。

- 1) 本学会の学術集会出席（2点）：参加証の写し
- 2) 本学会での発表（筆頭者1点、共同演者0.5点）：抄録号の写し
- 3) 本学会の座長（1点）：抄録号の写し
- 4) 本学会教育集会出席（2点）：教育集会受講票の写し
- 5) 生活習慣病に関する論文発表（筆頭著者1点、共著者0.5点）：表紙の写し
- 6) 他学会、研究会の成人病・生活習慣病に関する発表（0.5点）：抄録号の写し

※平成24年度申請の受付は平成24年1月16日より行い、平成24年10月1日をもって締め切る予定ですのでよろしくお願い申し上げます。なお、資格認定申請書は学会ホームページよりダウンロードできるように準備中です（他の書式は自由）。詳細は学会ホームページ上で順次ご案内申し上げます。ご参照ください。

主な関連学会のお知らせ(2012年1月～4月)

第76回大腸癌研究会

2012年1月20日

当番世話人：固武健二郎（栃木県立がんセンター）

会 場：栃木県立総合文化センター

連絡先：栃木県立がんセンター 039-658-5151

日本総合健診医学会第40回大会

2012年1月20日～21日

会 長：吉田 勝美（新赤坂クリニック）

会 場：東京国際フォーラム

連絡先：新赤坂クリニック 03-5770-1250

第84回日本胃癌学会総会

2012年2月8日～10日

会 長：辻仲 利政（国立病院機構大阪医療センター）

会 場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

連絡先：国立病院機構大阪医療センター外科 06-6942-1331

第8回日本消化管学会総会学術集会

2012年2月10日～11日

会 長：本郷 道夫（東北大学病院）

会 場：仙台国際センター・江陽グランドホテル

連絡先：株式会社勁相草書房 コミュニケーション事業部内
03-5840-6339

第46回糖尿病の進歩

2012年3月2日～3日

世話人：佐藤 譲（岩手県立医科大学）

会 場：岩手県民会館・盛岡グランドホテル

岩手県公会堂・岩手県水産会館

連絡先：岩手医科大学医学部 内科学講座 糖尿病代謝内科
019-651-5111

第112回日本外科学会定期学術集会

2012年4月12日～14日

会 頭：宮崎 勝（千葉大学大学院）

会 場：幕張メッセ・ホテルニューオータニ幕張

連絡先：千葉大学大学院医学系研究院臓器制御外科学
043-226-2987

第98回日本消化器病学会総会

2012年4月19日～21日

会 長：菅野健太郎（自治医科大学）

会 場：京王プラザホテル

連絡先：自治医科大学消化器内科 0285-58-7348

第85回日本内分泌学会学術総会

2012年4月19日～21日

会 長：大磯ユタカ（名古屋大学大学院）

会 場：名古屋国際会議場

連絡先：名古屋大学大学院医学系研究科糖尿病・内分泌内科学
052-744-2142

STROKE2012

2012年4月26日～28日

会 場：福岡国際会議場・福岡サンパレス

連絡先：株式会社コンベックス 03-3583-6677

第37回日本脳卒中学会総会



会 長：佐々木富男（九州大学大学院）

第41回日本脳卒中の外科学会

会 長：永田 泉（長崎大学大学院）

第28回スパズム・シンポジウム

会 長：西澤 茂（産業医科大学医学部）

 **編集後記** 

事務局からのお願い

勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、**必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。**
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意ください。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されました。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意ください。

一般会員年会費：3,000円／評議員年会費：6,000円

入会金：なし

◆年会費値上げのお願い

次年度(平成24年度)より年会費を下記の通り変更致します。ご了承、ご協力の程、宜しくお願い致します。

一般会員年会費：5,000円／評議員年会費：8,000円

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3
 (編集部) 株式会社 文栄社 内
 TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415
 E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
 URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

本年の出来事の中で未来永劫にわたり心に刻むべき出来事として、3月11日に発生した東日本大震災が挙げられます。発生から8カ月が経過した11月11日現在、死者15,836人のみならず、行方不明者も未だに3,652人を数え、合計19,488人の方が命を落とされました(警察庁調べ)。更に11月17日現在、寒さを迎える季節を迎えるにも拘らず328,903人の方が家を失い、今も学校や公民館での避難生活を送っておられる777人を含めて、全国47都道府県各地で避難生活を送っておられる、或いは仮設住宅で過ごしておられるという現状が突きつけられています(政府復興対策本部調べ)。愛する家族を震災で亡くされ、突然身に降りかかった不幸を今もまだ納得できずに引きずっておられる方々の本当に辛い胸の内は、我々の想像も及ばない深い悲しみに包まれているものと推察いたします。ここに再度、東日本大震災の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆様から心からお見舞い申し上げます。我々は大震災を単に天災として心に残すだけでなく、その後続いて発生した福島原発における人災の発生を重く受けとめると共に、今後日本人一人一人が何を目的として生きていくのか、そのために何を為すべきかを考えて過ごしていく重要性を我々の前に重く突き詰めています。

さて、東日本大震災以外で、今年の我が国の出来事の中で、特筆すべきものを一つ挙げよと言えば、明るい話題として日本にもいよいよ女性の時代が到来したという事ではないでしょうか。皆さんもご存じのように、サッカーワールドカップにおけるなでしこJapan、バレーボールワールドカップにおける火の鳥Nipponの活躍を見れば、スポーツ界における日本女子の台頭がいかに素晴らしいものであるかは明白です。なでしこJapanは体のつくりが全く違うドイツ・アメリカ等、欧米の選手と互角以上に戦い、胸のすく活躍の結果、ワールドカップサッカー優勝という金字塔を打ち立てました。また、火の鳥Nipponも平均身長が10cm以上も高い欧米のチームと互角以上に戦い、ドイツ・アメリカという超強豪を打ち破り4位入賞を果たしました。男子サッカーの侍Japan、男子バレーボールの龍神Nipponも勿論頑張っておりますが、侍Japanの力はワールドカップで優勝するには未だ程遠い力量である事、龍神Nipponもベスト10には全く力が及ばない事を考えると、これら日本女子チームの活躍が如何に素晴らしいものであるかが解ります。

日本成人病学会も、今後は女性医師の社会進出の手助けを大きな柱の一つとして捉え、女性医師のキャリアアップのための道筋と応援の手段を真剣に考え、日本女性の世界への挑戦と進出に全面的に協力したいと考えています。

1900年台から2000年台へと移って既に11年、昭和から平成へと移って既に23年が経過しましたが、社会は益々混沌の度合いを増し、人々の暮らしは一向に改善されておられません。このような時代のしわ寄せは、まずは高齢者や病める人等、必ず弱者に降りかかります。このような不安定な時代にあつてこそ、我々医療人は病める人に対して優しく慈しむ心を持って、誠心を込めて接し、しっかりとした眼差しで病を抱える人々と向き合っていきたいものです。

青沼 和隆

成人病（生活習慣病）ニュースレター
 Vol.10-No.3 2011年12月1日発行

発行人：岩本 安彦
 委員会顧問：増田 善昭・山口 巖
 責任編集委員：青沼 和隆 (筑波大学)
 編集委員：馬原 孝彦 (東京医科大学)
 大澤 勲 (順天堂大学)
 河野 了 (筑波大学)
 北川 泰久 (東海大学八王子病院)
 北山 丈二 (東京大学)
 佐藤 麻子 (東京女子医科大学)
 徳岡健太郎 (東海大学八王子病院)
 中川 敬一 (東京シーサイドクリニック)
 横山 登 (昭和大学豊洲病院)

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局
 (株) 文栄社 までお問合せください。